

食品リサイクル小委員会プレゼン資料

新潟県 JA津南町 営農部長 桑原弘幸

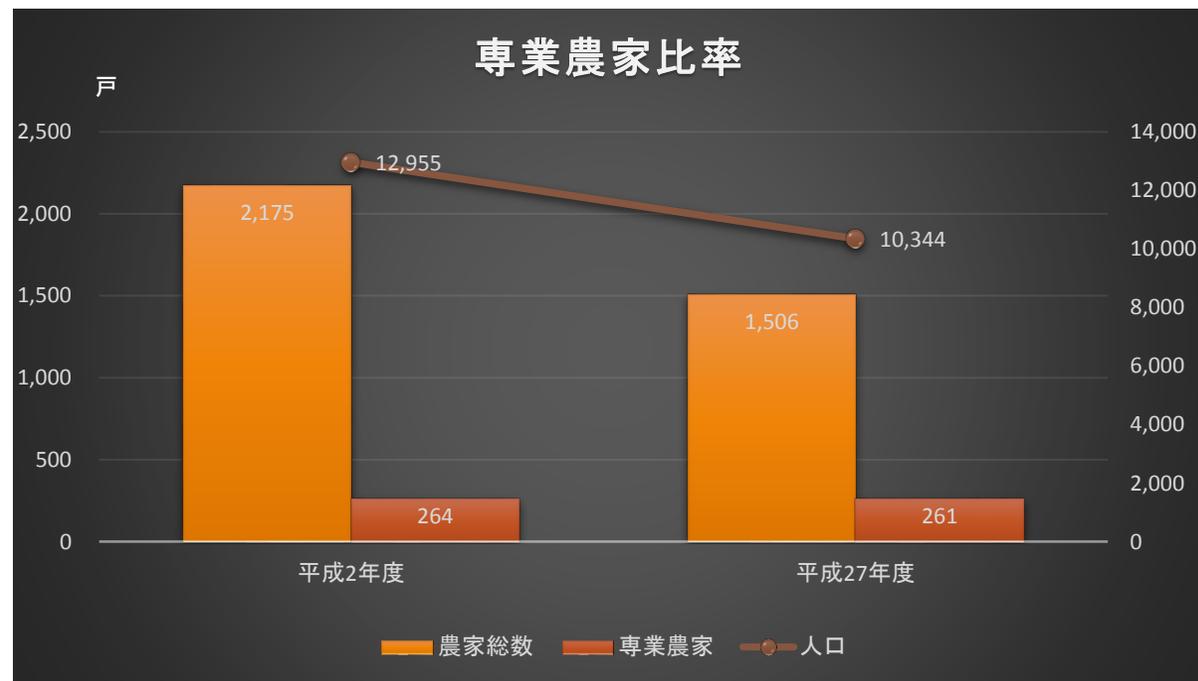
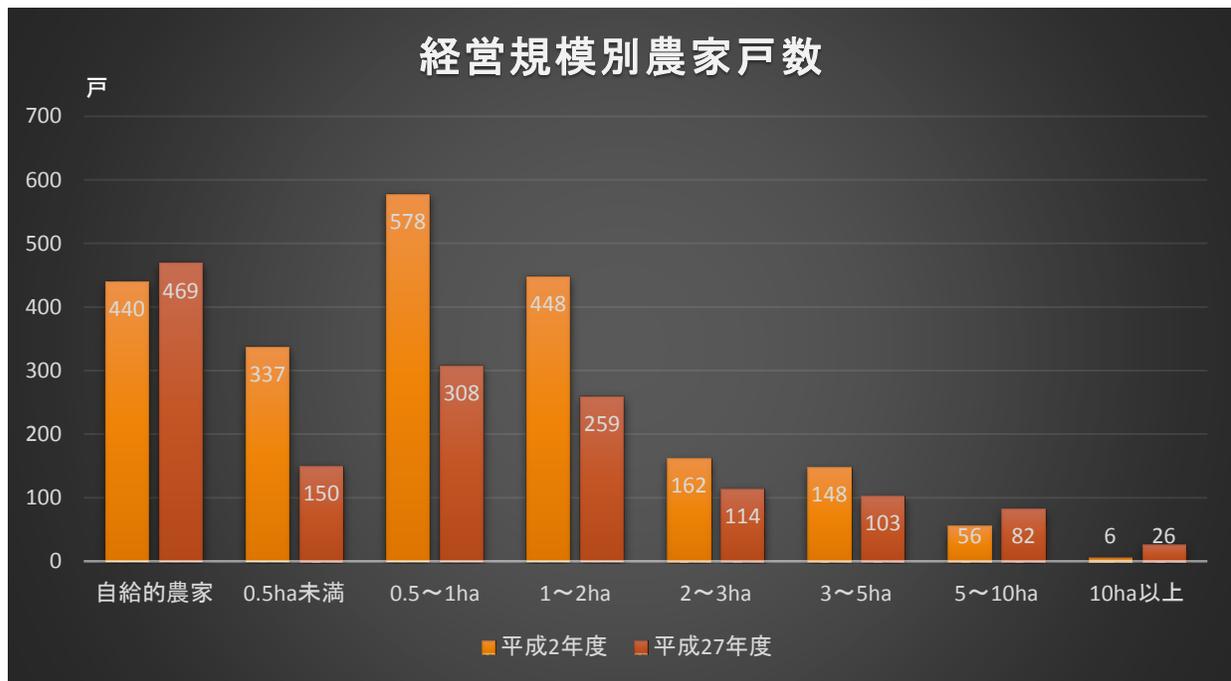
再生利用事業計画取得年月日 平成20年11月27日

平成13年（2001）に取組を始めた地域循環システム（エコサイクル）



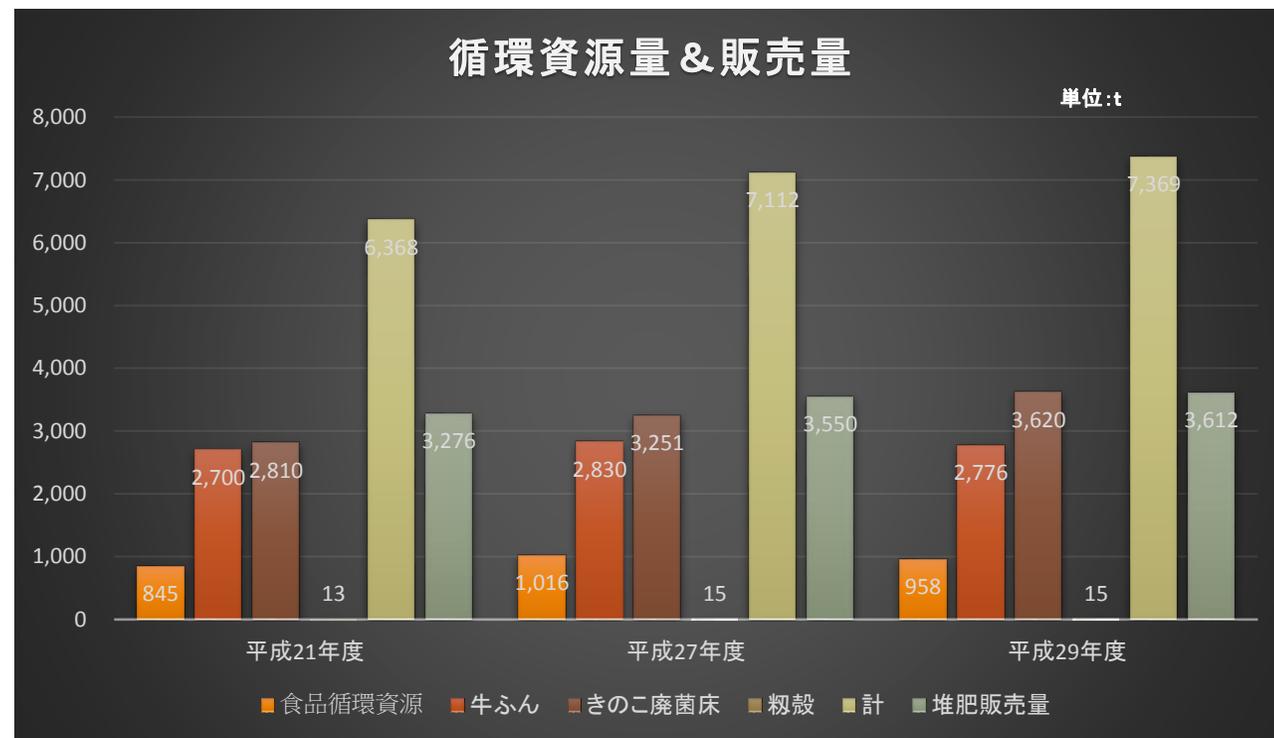
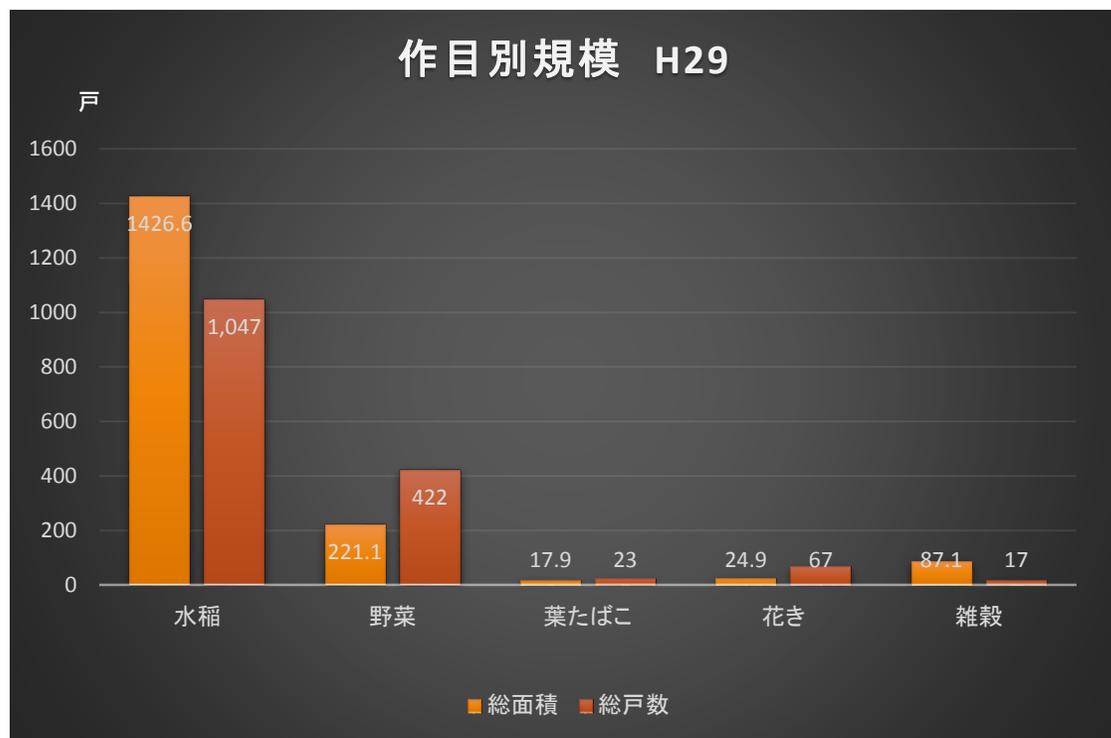
高齢化による農業人口の減少

津南町管内の農業人口の推移

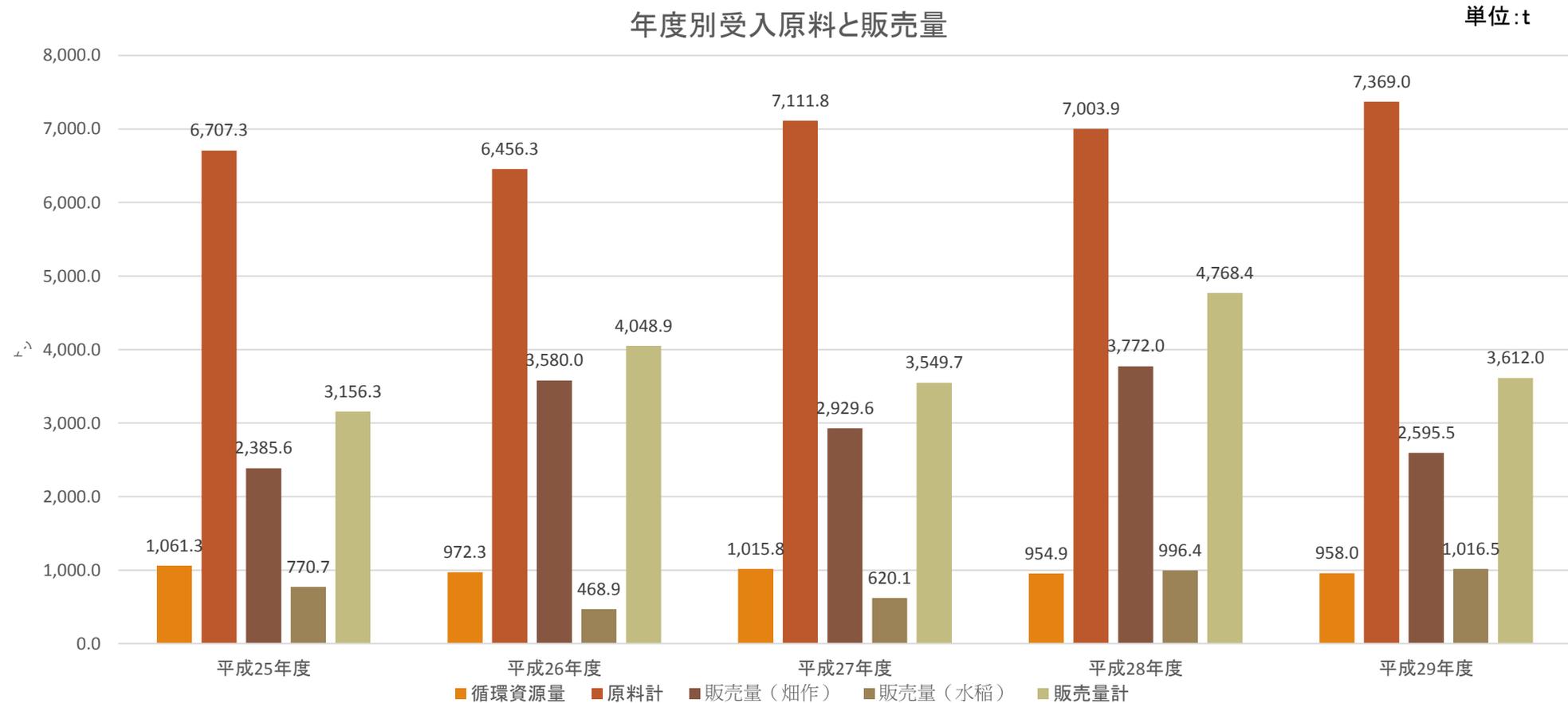


資料: 農林業センサス

作目別規模と特定肥飼料販売量等



JA津南町有機センター原料受入・販売状況



リサイクル肥料の活用・問題点について

- 農業従事者の高齢化による堆肥利用量の減少
- 堆肥化には原料の選定が必要
- 販売先の見えないままの事業展開は不法投棄につながる

再生利用事業計画全体フロー





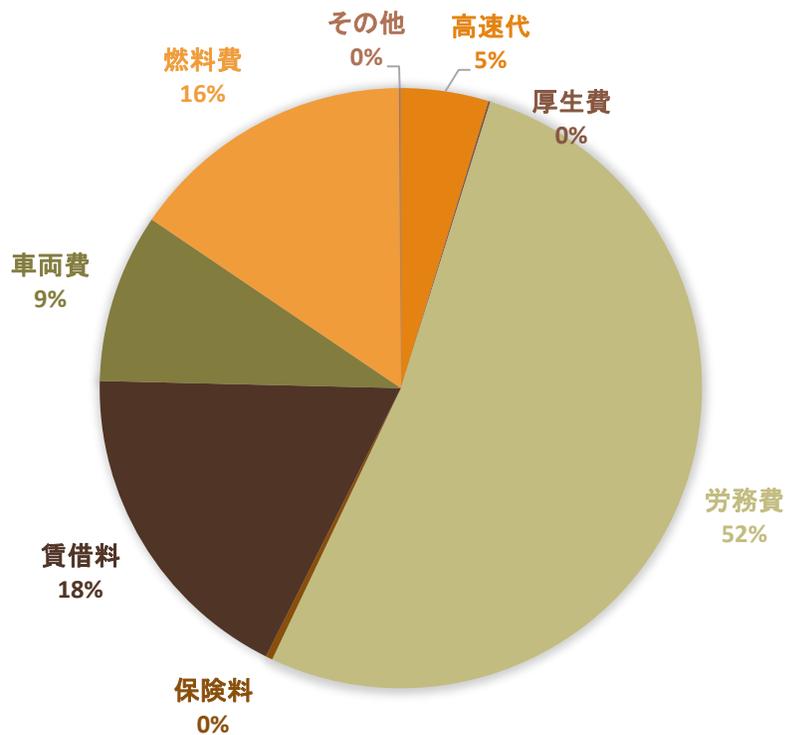
新潟方面 130km圏内
16店舗

長岡方面 65km圏内
20店舗

JA津南町におけるリサイクルループ

- 排出事業者との関係強化
- 回収範囲が広がることによる経費の増加
- 特定農産物の定義

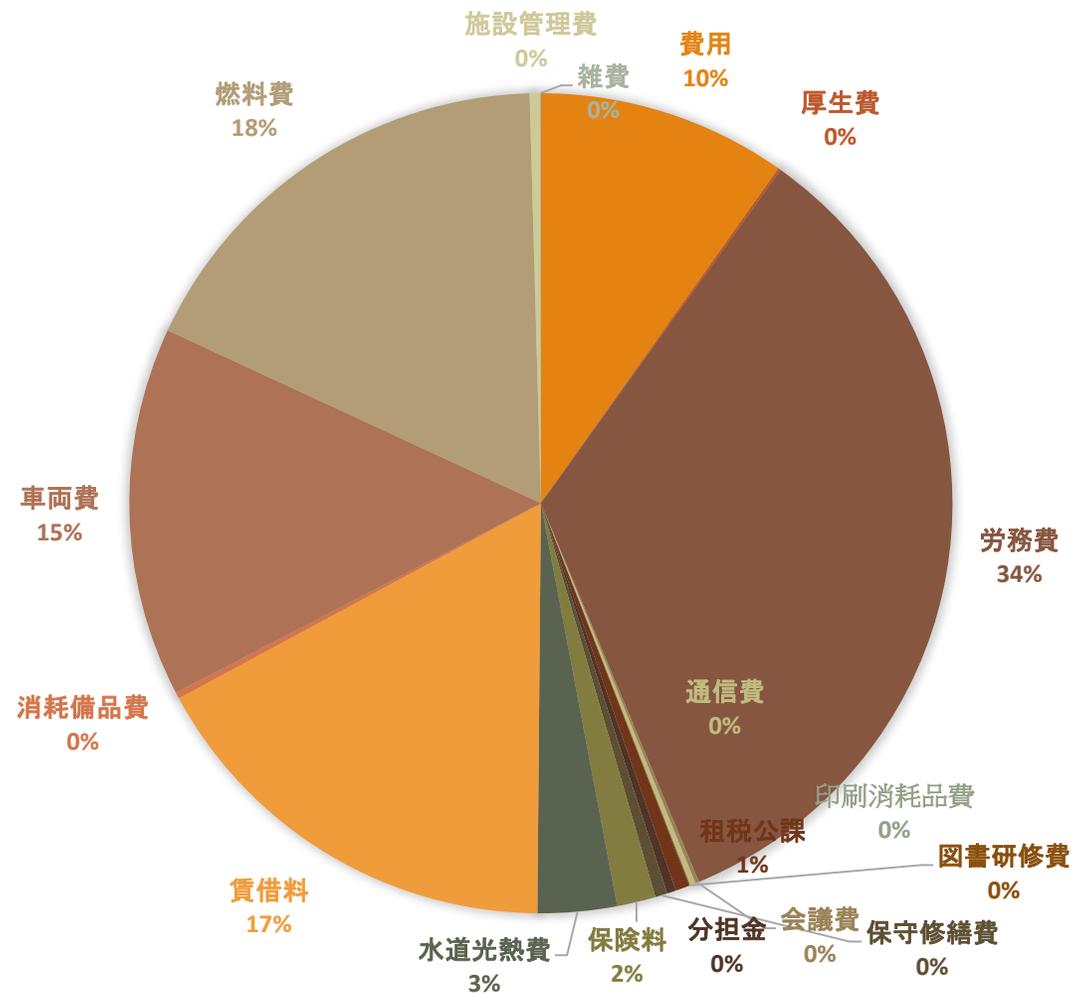
収集運搬経費



食品循環資源収入 32,440,000円

食品循環資源費用 18,361,700円

施設全体経費



施設全体収入 53,333,000円

施設全体費用 30,520,000円

消費者、製造・販売から見た食品ロス

- ・加工食品の納品期間(1／3ルール)や賞味期限の表示等流通・食品業界での見直しは
- ・そしてフードバンクとの繋がりは日本人の「もったいない」精神は

ご静聴ありがとうございました。

秋山郷